

～教育目標～

「よく学び、より鍛え、よりよく挑む」

児童生徒の育成



少し気の早い桜が見事に咲き誇り、本格的な春の到来を知らせてくれました。感染症に悩まされたこの数年でしたが、その中で得た教訓を生かしながら、新しい一歩を踏み出す年度の幕開けです。

舞鶴支援学校は19年目を迎え、小学部75名、中学部45名、高等部54名、全校児童生徒数174名で令和5年度をスタートします。舞鶴市全域を校区とし、地域に見守られ大切に歩みを重ねてきた本校ですが、学校運営協議会等において各方面から学校と地域をつなげる様々な御提案と力強いエールをいただき、今年度も様々な力をお借りし、人・文化・産業等の資源を存分に生かしながら、子どもたち一人一人の可能性を最大限発揮するよりよい自立と社会参加の実現に向けて教育活動を進めて参ります。また、コロナ禍の様々な制限が解かれていく流れの中、安心・安全には十分配慮しながら、発信方法や取組内容に知恵を絞り、既存の手法にとらわれない柔軟な発想を取り入れて「社会に開かれた教育課程」の具現化に引き続きチャレンジしたいと考えております。

「よく学び、より鍛え、そしてよりよく挑め」の校訓のもと、それぞれの子どもたちが、個別の指導計画に基づくオーダーメイドの学びを通してたくさんの「わかる」「できる」に出会い、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」と心揺さぶられて、新たなこと、未経験の場面にも臆せず立ち向かっていく力をぜひ育てていきたいと考えています。

改めて、それを具現化するうえでは、保護者や関係諸機関の皆様をはじめ、子どもたちが学び、育ち、暮らす環境そのものである“人”との結びつきが何より大切です。コミュニティ・スクールの取組や地域での体験、産業現場での実習等のさらなる充実を含め、学校の中だけで教育を完結させるのではなく、地域の力も大いにお借りしながら、子どもたちが様々な体験を通して生きる力を高めていくことができるよう、今後も変わらぬ御理解とより一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます、年度当初の御挨拶とさせていただきます。

京都府立舞鶴支援学校長 山本 直之